

道
守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.25 春号



九州北部豪雨からの復興

みちづくし in 熊本2012

今こそ考えよう 現代の道守とは…

巻頭随想

「五足のスニーカー」で歩く道

樗木 武

相次いで開通する「東九州道」

道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えていく。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、新しい道に一步踏み出そう。



「南阿蘇の民家」
九州風景街道フォトコンテスト入選作品
九州横断の道 阿蘇くまもと路
(撮影者：宮地 敏雄)

CONTENTS

- 01 巻頭随想 「五足のスニーカー」で歩く道 樗木 武
- 02 九州北部豪雨からの復興
- 04 24年度の道守活動
- 06 みちづくし in 熊本2012 今こそ考えよう 現代の道守とは…
- 08 相次いで開通する「東九州道」—
- 10 わたしの好きな道 宮崎・阿波岐原森林公園道路“パークウェイ” 永井佐代子
- 11 私たちの道守活動
- 14 国東半島をぐるっと一周 別府から佐賀関へ
- 16 海外道事情 自転車道700kmへ 松永千晶
- 17 道守たちのトピックス・道守人物伝・編集後記

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭 随想

TAKESHI CHISHAKI 樗木 武

「五足のスニーカー」で歩く道

昨年十一月末、各地から400名をこえる人々を迎え、「全国町並みゼミ福岡大会」が開かれた。そして、その懇親会が歓楽街中洲のパーティ会場で開催されたが、挨拶がてら中洲のことを紹介したいと、ネタ探しに昼間ぶらりと歩いた。夜の華やかなネオンと酔客しか思いつかない中洲だが、昼も以外に面白みがあることをあらためて知った。ビルからビルへ突き抜けるビル路地、建物のわずかな隙間に建つ国廣神社、享保大飢饉の犠牲者を弔う飢人地蔵等々。

そうした中の一つとして、3階建ての川丈旅館入り口横に小さな石碑があった。普段は見過ぎすほどの目立たないものであるが、よくみると「五足の靴」文学碑である。

上半分は、吉井勇が二度目に訪れた時の歌を刻む。
旅籠屋の 名を川丈といひしこと ふとおもい出て むかし恋しむ

下半分が文学碑である。与謝野鉄幹と文学青年北原白秋、木下幸太郎、吉井勇、平野万里が明治四〇年七月三十一日に泊ったと記されている。むろん、現在



の旅館は、古いとはいえ戦後まもない建物で、五人が泊まったのはそれ以前である。九州第一夜の宿であり、以後、柳川、佐賀、佐世保、長崎、天草、阿蘇と西九州をまわり、紀行文を著わした。九州の南蛮文化の再発見になったともいわれている。

五人の旅は、当時だから、列車や船を乗り継ぎながら、長い道のりを歩くものであった。特に天草下島では西海岸32kmを歩き、現在それを記念し文学散歩道になっている。また、五人が足を運んだ各地、約10箇所に、「五足の靴」の文学碑が立つ。

五足の靴（革靴？）は、砂利道一月の旅でそれぞれ履きつぶされたことであろう。

ところで、明治と異なり、現代の道は、自動車道が基幹をなすが、九州はそうした道の整備が遅れ、未だにミッシング区間がある。特に、五足の靴が足跡を残せなかった東九州、中九州の道は不十分である。しかし、ここに来て予算の追加があり、

これまで以上に整備が進むと期待されている。古い先短い小生も、早期の完成で、元気なうちに真新しい道を利用し、各地を訪れたいと願っている。

その際、現地までは自動車道であるが、到着後はまちあるき、地域の人々とのふれあいであり、歩くことが基本である。ゆっくり歩き、自分の目で見触れ、語り合うからこそさまざまな発見と感動がある。「五足の靴」も、昼の中洲も、目にしたもの、体験したものは歩いてのことである。その意味で、まちで歩き廻る道の整備がまた強く望まれる。

ただ、現代の靴は進歩を遂げ、歩くことが専門のスニーカーが主である。春先になり町を歩く旅行者が増えた。観察してみると7、8割がスニーカーである。若者に加え、お年寄りも、子供も、女性も。これに對し、まちの道がはたして

スニーカーにふさわしいかは疑問である。

スニーカーの語源はsneakである。歩きまわる、静かに寄るの意味をもつ。カジュアルで、足にやさしい靴であるものの、それにふさわしい安全安心の道、歩くことが楽しい道がまことに十分とはいえない。凹凸がある、無味乾燥、自転車が怖い。加えて、五足の靴が意味するところは、みんなで一緒に歩くことである。一人歩きもあるが、友が、家族が語りながら歩くことが楽しい。そのためには、道幅があり、路上をふさぐ放置自転車や立て看板がないことである。

明治の「五足の靴」ならぬ平成の「五足のスニーカー」で軽快に歩く発見の道、人の道こそがいま求められている。



プロフィール

道守九州会議代表世話人。昭和14年、福岡県生まれ。昭和37年九州大学工学部土木学科卒。平成14年同大学を退官し、名誉教授となる。退官後は、道守九州会議の設立に貢献し、また現在（一社）日本風景街道九州ネットワーク代表理事など。

九州北部豪雨からの復興

三万本の「あかり」が灯った

大分県日田市

平成24年7月、大分県日田市では二度にわたる豪雨により各地で甚大な被害が発生しました。花月川は二箇所で堤防が決壊、日田市内の他河川でも氾濫被害が生じる等、自然災害の怖さを感じ知らされました。

こうした中、堤防整備を進めている高瀬地区において、今回の出水に対する記録を後世に残すとともに、「治水の重要性」や「洪水時の自助・共助」「防災意識の向上」について考えてもらうきっかけとなればという思いから、日田市南部中学校の生徒が書いた「九州北部豪雨最高水位」の石碑を設置しました。生徒は二度と災害が起きないよ



うにとそれぞれの思いを込めて書写しました。その際、学校の先生や地域の方々からは「自然災害教育にさらに努めたい」、「豪雨の記憶を目に見えるもので引き継いでいくことは大事なことです」というコメントを頂きました。

また、大きな被害を受けた花月川では河川内の遊歩道などが、洪水により大量の土砂が堆積したことから、河川利用者の危険防止のため、出水後は立ち入り禁止の措置を取っていました。そのため、花月川で毎年11月に開催される、日田の風物誌「千年あかり（灯籠まつり）」も出水被害により開催が危ぶまれていました。しかし市民等か

らの「復興への想いを込めて例年以上にきれいなあかりをみせたい」という、開催に向けた熱い想いから、11月9日の開催に向け、事務所と地元実行委員会が調整を行いながら、「千年あかり」開催のため、地域一丸となり土砂撤去等を行いました。

撤去工事は、関係機関の協力により、無事に祭りに間に合い河川敷には「がんばろう ひた」の文字や支援への感謝、復興への願いを込めた約三万本のあかりが灯され、多くの観光客で賑わいました。

一万四千人のボランティアに感謝

熊本県阿蘇市

平成24年7月12日未明に発生した九州北部豪雨災害に際し、被災されました皆様にご心からお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々に、衷心から哀悼の意を表します。

九州北部豪雨では阿蘇市においても各地で道路崩落や河川の氾濫による住宅浸水や山からの崩落により22名の死



土石流（当時）



土石流（現在）

元気を頂きました。

市では今回の災害を受けボランティアのご協力の下、被災された方々が速く普段の生活に戻れるよう生活再建に向け急ピッチで進め、学校、道路などの土砂撤去などの応急復旧を大幅完了し、被災を受けた内牧温泉も順

現在、花月川では、約5年間の緊急対策として、河川激甚災害対策特別緊急事業に着手しており、より安全で地域の方々にとって親しみやすい川づくりを目指して参ります。

（筑後川河川事務所 日田出張所）

次、再開を始めております。またこの度、緊急的に対策を実施する「河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）」が決定し平成25年3月9日に黒川流域の住民代表らに出席頂き着工式を行います。

米作りまで復興しよう

平成24年7月の「九州北部豪雨」により、うきは市では農地298箇所、農業用施設196箇所、林道116箇所の計610箇所が被災という甚大な被害を受けました。

その中に日本棚田百選にも選ばれ、日本風景街道に平成24年3月に登録した「みどりの里・耳納風景街道」の重要な資源でもある「つづら棚田」も、石垣の崩壊、棚田内への土砂流入、水路の崩壊等約50枚（全体約300枚）が被害を受えました。



つづら棚田の被災状況



復旧作業状況

ボランティア等による復旧作業を11月25日を第1弾としてこれまでに7回実施し、総勢約700名の方が参加（約3割は市外からの参加者）していただき、まずは米を作られるまでに復旧しよう

ました。今後、5年かけて本格整備して参りますがお互いに力をあわせ、そして助け合いながら地域と一体となり一日でも早い復興を目指して参ります。

（熊本県阿蘇市役所）

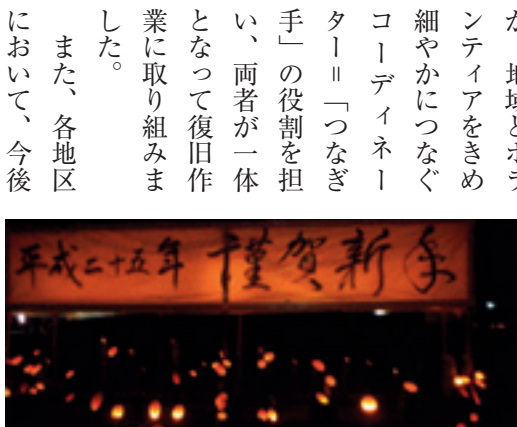
キャンドルなど多彩な催し

大分県中津市

平成24年7月、大分県中津市は本耶馬溪などを中心に、二度にわたる豪雨により、各地で道路の寸断や家屋の浸水等の甚大な被害が発生しました。国、県、市では、被害の拡大防止や交通確保のため、被災直後より緊急を要する箇所の応急工事を行うとともに、現在、各地で本格的な復旧工事を進めているところ

一方、本災害では、地域の住民の方々が主体となった復旧・復興への取組も行われています。

被災地では、被災直後より県内外から多くのボランティアの方々のご支援を頂きましたが、自治委員等の世話役が、地域とボランティアをきめ細やかにつなぐコーディネーター「つなぎ手」の役割を担い、両者が一体となって復旧作業に取り組みました。



被災した、地区を繋ぐ雲與橋や郷の駅に復興祈願の灯りをともしました



被災し夏休みに遊びに行けない子ども達のために地区で「smileフェスタ」を開催しました

24年度の道守活動

●道守ふくおか会議 悩みやアドバイス交換

道守ふくおか会議の福岡地区では名島橋一斉清掃、県南地区（柳川）では堀と道クリーンアップ大作戦、北九州地区では北九州市道路サポーター総会など、地域の特性を活かした活動を行っています。

柳川では、高尾忠志九州大学特任教授（景観専門）を迎え、「道づくりからふるさとづくりへ」講演会を開催。高尾氏は現在、西鉄柳川駅周辺整備事業にも携わっており、今の柳川とこれからの柳川、道守活動や地域づくりにについてお話を聞きました。また、県南地区の意見交換会を大牟田市で開催、「交差点付近で高齢者が休めるような施設を」「活動をどのようにしたら広めることができるのか」など各団体が抱えている悩みや、アドバイスなど活発な意見交換が行われました。

●道守佐賀会議 継続しています

「佐賀城下ひなまつり清掃活動」佐賀市内では毎年2～3月に「佐賀



城下ひなまつり」が開催され、期間中に約10万人の方が訪れます。平成17年から続く「佐賀城下ひなまつり清掃活動」も定着しています。「道守活動の普及」と「地域の活性化」を目的にひなまつりが開催される前に会場周辺を清掃する取り組みで、9年連続です。今回は160名が参加。佐賀県庁前を火ばさみとゴミ袋を手に出発し、3班体制でそれぞれ2km、計6kmの道路周辺を1時間余り清掃しました。相変わらず多いのが「空き缶」と「タバコの吸い殻」。この取り組みを開始したときは道守会員だけで行っていました。最近では特に子供連れの親子、若者なども目立ち、道路にゴミなどを捨てない「こころ」を育てる教育にも役立っています。

●道守長崎会議

種まきから花苗植えまで NPO法人道守長崎は平成22年度に



小学校との交流活動（西海市大島東小学校 花苗種まき活動集合写真 2012.9.13）

は国土交通省の社会実験で「道路植栽帯管理システム」、平成24年度は長崎県の社会実験「道路植栽帯管理システム」を使い、長崎県西海市の大島東小学校と連携して、種まきから苗を育て他の学校や地域に配り花植えを行いました。

育った苗は西海市内の幼稚園や小学校、長崎市の小学校へも提供しました。花苗を通して他地域と交流することで、小学生の「心の豊かさや喜び」を実感してもらいました。

この取り組みが認知され花植えに必要な資金の提供者、活動に参加してくれるグループなどの輪が広がっていくように頑張ろうと思っています。

「街道ツアー交流活動 向上検討会」開催

平成24年12月21日、「街道ツアー交流活動向上検討会」が開催されました。九州風景街道運動の「歩く会」や「バスツアー」などのツアー型の交流活動が成果をあげてきています。（一社）日本風景街道九州ネットワークでは、こうした活動の世話人の方々に、日頃のご苦労や、工夫などについての意見交換を行ったものです。検討会では、募集や安全管理、資金、継続性など多くの課題と、これ乗り越えてきたノウハウなどが披露され、各活動の交流の活発化や新たな企画の検討など、今後の展開に関する意見も提起されました。



菅生小学校のゴミ0大作戦

●道守大分会議 地元企業と共に

道守大分では、①次世代を担う子供たちに道路愛護・道守の精神を継承していきたい②地元企業を巻き込んで「道守」にしていきたい——を平成24年度の重要課題として取り組みました。

①竹田市・菅生小学校（全校児童37人）では、毎年2回行っている「菅生ゴミ0大作戦」で国道57号等のゴミ拾い活動を行いました。この活動は、30年以上前から引き継がれており、児童たちの誇りです。

菅生小学校を例に、大分県下でも協力していただける学校や自治体に働きかけたいと思います。

②大分県内の金融機関では初めて大分銀行から入会の申し込みがあり、道



南日本銀行からは、花苗の援助金を、鹿児島銀行からは、賛助会員加入をご

●道守かごしま会議

『道守かごしま座談会』を開催！
支援を受けて製作したビブスもお披露目しました

平成25年2月19日に「鹿児島ブロック『道守かごしま座談会』」を開催。道守会員と共に、「ふるさとの道サポーターさん」にもご参加いただき、情報交換を行う良い機会となりました。

事業紹介や講話の他、そうしんまちづくり振興基金から助成をいただいて製作した、ビブスもお披露目しました。『かごしま会議』の文字の代わりに鹿児島島のシンボル桜島のイラストを入れたものです。

南日本銀行からは、花苗の援助金を、鹿児島銀行からは、賛助会員加入をご



九州風景街道九州ネットワーク「フォトコンテスト入選作巡回展」7会場で展示

平成22年から23年で実施した九州風景街道フォトコンテストの入選作「九州グランプリ作品」による巡回展を24年6月～12月に亘って、7会場で開催しました。「九州グランプリ」では、全応募作品数約640点から、ルートグランプリ作品として71作品が、さらにこの中から、九州グランプリとして11作品が選定されたものです。（Vol.22秋号、Vol.23秋号に掲載）

7か所の会場は、ホールや会議場・道の駅・公共施設ロビーなど、多様な会場を利用して、多くの方に観ていただき、広報はもとより、九州の資源発掘や紹介に好評をいただきました。



●道守くまもと会議

風景街道活動でも表彰

道守くまもと会議は県内約35ヶ所の道守花壇の運営をはじめ道路の清掃美化や、道への関心を高める活動、歴史的な道の顕彰など、様々な活動を行っています。毎年恒例の8月10日の「道の日」の県下一斉清掃では、昨年も熊本県内130ヶ所に及ぶ関係箇所協力の元、約4千人が参加し、道路の清掃に取り組みしました。

昨年は「みちづくしin熊本2012」を開催。九州各県の二巡目をスタートとなりました。

また、風景街道活動では年間優秀活動賞に「九州



「徒歩の旅」表彰式
動賞に「九州横断の道阿蘇くまもと路」が選ばれました。今回は「自然を愛する会」が30年以上続いている「九州横断徒歩の旅」が評価され、幸山熊本市長の立ち会いのもと、表彰式が行われました。

みちづれ in 熊本2012

道守九州会議交流会

今こそ考えよう 現代の道守とは：

九州から
270人
参加

九州の道守が一同に会する第9回「みちづれ in 熊本2012」が、平成24年10月26日、27日に熊本市で開催され、二百七十名が参加した。

交流会は実行委員長の坂本正氏の挨拶から始まり、樗木武道守九州会議代表世話人、小野泰輔熊本県副知事、西島喜義熊本市副市長、山内正彦九州地方整備局道路部長から挨拶をいただいた。

道守くまもと会議代表世話人である坂本正熊本学園大学教授が「道守と地域の幸福」と題して基調講演を行った。その後三つの分科会に分かれ、各テーマについて情報提供や意見交換を行い、その結果を全体会で各座長が報告した。

最後に中村幸子道守くまもと会議事務局長が大会宣言提案、会場の大きな拍手で賛同された。

夜の部では交流集会ではオープニングイベントや各県のPR・道守ブースの紹介が行われ、和やかな雰囲気の中参加者の親睦を深めた。

平成16年から始まった「みちづれ」は、今回から九州二巡目。今後も道守の輪が大きく広がります。

基調講演

道守と地域の幸福

坂本正 熊本学園大学教授

現在、くまもと幸福量研究会チームリーダーとして「県民の総幸福量の最大化を目指す」という考えに基づき、幸福量の指標づくりに取り組んでいる。東日本大震災で生き方や社会のあり方が問われる中、全国の自治体でも

分科会

分科会は、各座長に進行をお願いした。各県からの事例発表の後、活発な討論が行われた。

●第一分科会

「先進地に学ぶ活動のあり方と

資金確保」

座長 都市ジャーナリスト 森野美徳氏

発表 道守長崎会議 阿野史子さん

道守みやざき会議 石田達也さん

●第二分科会

「民と行政のパートナーシップ」

座長 九州大学名誉教授 樗木武氏

発表 道守佐賀会議 洪谷里美さん

道守ふくおか会議 山田三代子さん

●第三分科会

「道の楽しみ方」

座長 熊本学園大学教授 坂本正氏

発表 道守大分会議 押切真人さん

道守かごしま会議 田島直美さん

道守くまもと会議 阿南誠志さん

交流集会

オープニングセレモニーの山鹿灯籠踊りに続き、吉崎収九州地方整備局長から挨拶。会場には各県毎に活動パネルや特産品を展示するなど趣向をこらした「道守ブース」が設置された。中には揃いの法被姿で地酒を振る舞うブースもあり、会場に華を添えていた。参加者は食事をしながら見学したり、展示された酒や菓子などを賞味、日頃の苦勞話しや思い出話に花を咲かせた。またステージでは各県道守のPRタイムもあり会場を沸かせた。

年に一度の「み



大会宣言
道にはドラマがあります。古代から現代まで、道は多くの歴史を生み、私たちの暮らしを支えてきました。道の歴史や役割を再認識し、世代を超えて「道守の精神」を大切にしたい



ちづれ」。次は長崎の地での再会を約束した。



大会旗は、道守くまもと会議から来年の開催地である道守長崎会議へ引き渡された。

最後は今後の道守の発展を祈念し、塚原健一道守九州会議副代表世話人の万歳三唱で締めくくった。

現地体験学習会

2日目は、「歴史街道 参勤交代阿蘇路を歩く」と題して、江戸時代の参勤交代の道のひとつである豊後街道を

今年で10年目！

みちづれ in 長崎2013開催案内

「みちづれ in 長崎2013」の第1回実行委員会が2月22日、長崎市内で行われました。道守長崎会議を中心とする実行委員会のメンバーをはじめ、国や県など行政関係者ら14人が出席。開催に向けて、実行委員の組織分担やスケジュールなどを中心に話し合われました。今後、月1回の実行委員会開催を確認し、本番に向けて、着々と進められております。

■日程：平成25年11月1日(金)・2日(土)

○1日(金) 長崎大会・交流会

(会場予定)・長崎港松が枝国際ターミナル

・交流会：グラバー園

○2日(土) 現地体験学習会

※荒天時は、交流会においても、長崎港松が枝国際ターミナル



第1回実行委員会の様子



長崎港松が枝国際ターミナル



グラバー園



相次いで開通する「東九州道」

1. H24年度は6区間も開通

東九州道は、北九州市を起点に九州東岸の各都市を経由して鹿児島市に至る延長436kmの高速道路です。

正式名称は「東九州自動車道」ですが、整備する側の都合で一部区間を「椎

田道路」や「延岡道路」などと表現していました。利用者側からすれば分かりにくい事この上ないのと、正式名称は文字数が多いので、今後は略称として「東九州道」と表現する事としています。



蒲江～北浦開通式典

平成24年度は、大分・宮崎両県で6区間も開通しました。
北から順に「蒲江～蒲江波当津」北浦（14.2km、2/16開通）、「須美江～北川」延岡（18.4km、12/15開通）、「都農～高鍋」（12.9km、12/22開通）、「清武JCT～清武南」（1.2km、3/23開通）、合計6区間、延長にして46.7kmが開通することになります。
その結果、東九州道の中でも整備が遅れていた宮崎県においても55%まで整備率が伸び、東九州道全体の整備率55%に追いついたことになります。



延長が長く、景色の見える区間が限定されています。わずかな景色を損なわないよう、盛土上部に、雑草に強い芝や鉄鉾スラグを採用しました。
② 分かりやすい交通誘導
舗装のカラー化や高輝度の案内標識を採用して、行き先を間違わないよう



延岡JCT

⑤ 巨大津波対策

大地震などによる津波被害によって逃げ場の無くなる可能性がある地域に、住民の避難行動の一助となる「緊急連絡路」や「避難階段」を設置しています。大分県側では丸市尾と葛原の2カ所に、宮崎県側では北浦地域に2カ所設置しました。



3. 開通効果

今年度の開通で特筆すべき事は、大分県と宮崎県が初めて高速道路で結ばれたところに意義があります。両県知事も経済交流や観光交流を期待する旨発言されています。特に、佐伯市蒲江と延岡市北浦は、これまで車で55分かかり、近くて遠い町でしたが、「蒲江～北浦」間の開通によって、23分に短縮され、近くて近い町へと変貌しましたのです。経済界では、佐伯・延岡それぞれの海の幸・山の幸など、お互いの良さを活かした「戦い」が始まるとの声も聞こえてきます。実際、蒲江では、海の幸を中心に観光宣伝隊

舗装の種類	延長(m)	割合(%)
コンクリート舗装	9,005	30.7
コンポジット舗装	8,497	29.0
アスファルト舗装	11,798	40.3
合計	29,300	

④ 照明

トンネル照明やインターチェンジの照明にLEDを採用し、今後の電気代の節約をしています。

を組織し、宮崎県北をターゲットに精力的に活動していますし、延岡では、今一度延岡のシンボルである五ヶ瀬川を活かした街づくり計画に沿って、鮎やなや食事処の整備などに着手、来訪者の受け入れ準備が着々と進んでいます。

4. 今後の見通し

東九州道は、遅くとも平成28年度末までには、北九州市から宮崎市までつながります。

現時点で、見通しの立っている区間を開通年度ごとに整理すると次の通りです。



◆平成25年度
「苅田北九州空港～行橋」「日向～都農」
◆平成26年度
「行橋～豊津」「椎田南～宇佐」「曾於弥五郎～鹿屋串良」
◆平成28年度
「佐伯～佐伯南～蒲江」「北浦～須美江」
このように、平成25年度には延岡～宮崎間が高速道路で繋がり、平成26年度には北九州～佐伯間が繋がることとなります。
両県知事や経済界などからの、北九州市から宮崎市まで、なんとか平成26年度末までには繋いでほしい、との要望を重く受け止め、一分一秒でも早く開通できるように努力したいと思っています。(国交省・九州地方整備局)



サポーターの会発足が決まった総会

この会は、北九州市道路サポーター制度に登録し、道路美化のボランティア活動を行っている187団体によって構成され、「区会」、「幹事会」及び「総会」が設

た。この新たな仕組みづくりを始め、約9割は賛成でしたが、「ボランティア活動なので縛られたくない」「固苦しいのは好まない」との意見もありました。

この新たな仕組みづくりを始め、約9割は賛成でしたが、「ボランティア活動なので縛られたくない」「固苦しいのは好まない」との意見もありました。



市民憲章推進委員会が持つ大切な役割、「未来のまちをつくる子どもたちへの、憲章文の浸透」は大きな課題です。
(大牟田市民憲章推進委員会 会長 永松 均)

福岡 北九州市 道路サポーター

新たな仕組み始動!!

先月2月6日
(水)「北九州市道路サポーターの会」が発足しまし

た。この会は、北九州市道路サポーター制度に登録し、道路美化のボランティア活動を行っている187団体によって構成され、「区会」、「幹事会」及び「総会」が設

た。この新たな仕組みづくりを始め、約9割は賛成でしたが、「ボランティア活動なので縛られたくない」「固苦しいのは好まない」との意見もありました。

私たちの 道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。



リゾート施設を臨むパークウェイ



満開のトキワマンサクが彩る緑地帯



スイセンが咲く松林

わたしの好きな道

花めぐり・自然樹形の景観へ

宮崎・阿波岐原森林公園道路「パークウェイ」

宮崎県立阿波岐原森林公園は、宮崎市の、日向灘に面する海岸沿いの松林の中、国際的なリゾート施設が揃う地区にあります。施設をつなぐメイン道路は「パークウェイ」と呼ばれ、全国的にも珍しく公園道路として管理されています。私たちは、この公園の指定管理者として、道路で来園者をもてなしたいと考え、延長4.5kmのパークウェイに、魔法をかけるといって美しい花の景観を作り出そうと奮闘しています。

パークウェイの緑地帯(歩道と車道の間の植栽帯)には、高木から低木、宿根草、一二年草(花壇)、球根植物など、ありとあらゆる植物が植栽されています。例えば、「サザンカが植栽された和風ゾーン」など大まかなゾーンを決めており、そのゾーンのイメージアップも私たちの役目です。和風ゾーンには「ランタナの刈り込み」よりも「ツツジの自然樹形」など、効果的でより管理手間のかからない提案を積極的に行っています。さらに、車で走った時に見えるカーブの景色や松林を彩る景色、散策している人の足下を彩る景色、など、大から小の景観まで気を配ります。さて、一番の見頃はなんと言っても春です。3月中旬頃から松林の縁に黄色のスイセンが一斉に咲き始め、緑地帯ではユキヤナギやコデマリ、ツツジなどの花かん木が次々と満開を迎えます。大きく生長したトキワマンサクが真っ赤に色づき群となって咲き乱れる景観は、南国宮崎ならではの春を強烈にアピールします。

ところで、宮崎の春と言えば「花」、3月は宮崎のあちこちで花のイベントが始まります。パークウェイのある一ツ葉エリアでも、「春の一ツ葉 神話と花めぐり」として、地域の施設・店舗・個人が花を飾ります。また、今年からは宮崎市内の各企業や団体・市民が一緒になって「花の楽園・みやざき」をアピールする「みやざきフラワーマンス」の取り組みも始まりました。

私たちは、パークウェイを「花のみやざき」を代表する道路として、皆様に感動を与える道路となるよう、日々の管理に励んでいます。



プロフィール
永井佐代子 (ながい さよこ)
一般財団法人みやざき公園協会事業推進課、民間の造園コンサルタント会社を経て平成17年に入社。宮崎市内の花修景の企画、設計に携わる。

福岡



大牟田市民憲章推進委員会

自然と調和したきれいな町に

市民生活の道しるべとして、「みずからの責任において、互いに力を合わせ」まちづくりを行うことを市民自ら宣言をした「大牟田市民憲章」は、昭和57年7月に制定されました。5つの具体的な目標の一つ「自然と調和したきれいな町にしましょう」、この実践活動の一環として、60人の推進委員に呼びかけ、国道208号沿いの植栽の手入れや、市域の清掃活動に取り組んでいます。

市民憲章推進委員会による街路美化の範囲は、大牟田市役所前から熊本県荒尾市方面へ約280メートル、市の中心部であり、大牟田市のイメージを印象付ける場所です。そのことに對する周辺地域の皆さんの意識は私たち以上に高く、季節の花が咲き、手入れがされています。「私たちは、絶えず自然との関わりによって生活を営み、その恩恵によって生きています。自然を大切にすることは、自然の保護に努めることであり、自然を心から愛し、美しい町をつくる心を育てること。」

佐賀



「安全・快適」な
道路環境づくりを目指して

葉隠会は、国土交通省佐賀国道事務所勤務した経歴を持つOBの親睦団体です。道守部会は、道路清掃ボランティア活動による地域貢献と道守活動の発展に寄与することを目的に、葉隠会の部会として平成22年に発足し、現在25名の会員により活動しています。

佐賀路を訪れる観光客の方々におもてなしの心で快適に道路を利用して頂けるようにとの願いから、主な活動として道守佐賀会議主催の道守体験事業「佐賀城下ひなまつり清掃活動」への積極的な参加と自主事業として佐賀インターナショナルバルーンフェスタの開催に合わせ、国道34号佐賀バイパスの清掃活動に取り組んでいます。



また、現役時代は道路の建設事業や維持管理に従事した経験から日常生活においても道路施設の損傷や異常の発見・連絡通報など道路のモニターに努め、道路交通の安全に貢献していきたいと思っています。

長崎



「日本一きれいなまち」を目標に

長崎県北松浦郡佐々町を走る国道204号線にある佐々町商工中央部会や同町中央町内会老人会などで作るボランティア団体で、平成11年6月発足しました。

毎月1回、佐々町内の美化活動に努めており、発足から今年6月で丸14年を迎え、今では、地域貢献の為に建設業協会・企業・健全育成会・地元清峰高校など町民約200人が登録しております。

美化活動は、毎回約100名の参加者で活動し、通算133回（平成25年3月時点）の活動を重ねました。今年1月には、長崎県県北振興局よりコンクリート製プラント30個の委託を受け、佐々町内の国道204号沿いの歩道に設置され、花植えにも励んでおります。



また、このプラントの側面には「ようこそ佐々町へ にこにこクリーンさざ」と書かれたパネルも付け、ドライバーらに町や団体活動をPRしています。

「ゴミの少ない「日本一きれいなまち」を目標に頑張っています。」
(会長 西尾 弘毅)

熊本



並木街道を守るボランティアの会

郷土の宝「並木街道」を
きれいにする元気活動

豊後街道の中の大津街道の一部、約2km、1ヘクタールにわたって、清掃・草刈・補植など並木の保護と景観美化に取り組んでいます。この沿道には、加藤清正の時代から植え継がれている並木杉と細川藩預けとなった赤穂浪士が贈ったハゼの木が平行して植わっています。この貴重なハゼの木が枯れたり、ツタなどが絡まって弱っているのを目にして、当会を立ち上げました。

活動目的は、遺跡並木街道の「景観美化」に務めること、そして街道の緑を豊かにすることです。「森の都熊本の魅力アップ」を図ること、さらに街道の緑化で車両の排気ガス吸収やヒートアイランド防止、雨水の地下浸透等の確保など、「地球温暖化防止」の一助とすることです。現在は地元住民約45名で活動しており、保護・育成並木は400本以上、アジサイ20株以上を植え付けています。



今年は「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰受賞者に選ばれ、活動を支えて下さる皆様に感謝するとともに、今後も活動を継続するべく近隣の小学校での講演などにも力を入れたいと考えています。

(代表・黒木嘉次郎)

大分



道守大分会議

おもてなし！

「別大毎日マラソン」前日、一斉清掃

新人の登竜門として注目されている「別大毎日マラソン」が毎年2月に開催されています。「別大毎日マラソン」は、全国にテレビ中継され、別大道路が注目を浴びる日です。

マラソンのスタート地点・通過ポイントは、「マイツリー」を植樹した箇所なのでテレビに映ります。

そこで、全国から集まってくる選手や応援団をお迎えするため、我らの「マイツリー」を見てもらうため、別大国道付近を道守さん、他マラソンコースを大分市職員ボランティア、大分県土木事務所、NTT西日本大分支店の皆さんが、同時に一斉清掃を行いました。

急な呼びかけにも関わらず、道守さん60名、国交省職員ボランティア20名の計80名が参加しました。



大分銀行より贈呈の「道守ユニフォーム」を来て集合写真

もちろん、マラソン大会のテレビ中継には「マイツリー」が映り、「テレビに映ったね！」とお互いに連絡を取り合いました。

全国に自慢できる素敵な景観の一部となっている「マイツリー」を維持するため、引き続きコツコツと活動を続けていきたいと思っています。

宮崎



一般財団法人みやざき公園協会

利用者のニーズに対応した
サービス提供へ

一般財団法人みやざき公園協会は、設立以来、県の施策に基づいて、宮崎の都市公園等の管理運営、道路等の植栽管理委託、植物生産、植栽設計などの業務を40数年行っており、日頃より花みどりに関する各分野の知識と技術を蓄積しています。

「花みどりLifeみやざき」を経営理念に、宮崎の気候に適した植物生産技術研究、質の高い施工・維持管理、公園・公共施設を始め民間も含めた植栽設計・企画提案、地域と連携した公園の管理運営など、花とみどりを通じた「花みどりの総合プロデュースカンパニー」を目指し、事業を進めているところです。

平成18年（2006年）、指定管理者制度の導入により、県内の都市公園や施設などの管理は、維持管理センターから、利用者のニーズに対応したサービスの提供などの運営を主とした管理方法に変わりました。これを機に、私たちは、まちづくりのNPO団体の活動にボランティアとして参加し、活動ノウハウを学び、現在は、市民団体・地域自治会などと連携・協働した事業で、地域・行政とのコーディネート役としての様々な活動を行っています。



現在、道守みやざき会議の活動もその一環として、取り組んでいます。今後も、春のイベント「みやざきフラワーマンス」を始め、各地域で取り組まれている住民主体の花みどりに関する活動等については、積極的に支援・協力していきます。

鹿児島



株式会社きたやま（鹿屋市）

店舗周辺地域への「恩返し」として
頑張っています

毎月1回、店舗周辺の道路を中心に、ゴミ清掃や除草活動を行っています。

社内では「美化作業」と称し、約20年以上継続して参りましたが、残念なことに「ゴミが減るどころかむしろ増えている」という実感を抱いております。タバコの吸い殻、空き缶、ビニール類、雑誌、ペットの糞、弁当ガラ、金属ゴミ、等々枚挙に暇がありません。会員は約120名です。極少数のマナーの悪い人の為に、地域的美観が損なわれ、環境が悪化していると思われまます。「キレイなところにゴミは捨てづらいもの」。今後もゴミ一掃を目指して頑張っています。





杵築市「坂道の城下町」と呼ばれる坂道



杵築市北台の武家屋敷



湊音寮（国東市）



熊野磨崖仏（豊後高田市）



湯けむりの町、別府

● **城下町を歩く**

杵築市に入ると、風景は一転、江戸時代にタイムスリップした。杵築の街は、お城を中心に、南北二つの高台に武家屋敷が見事に保存されている。その丘の谷間になる道筋は、商人街。見事な都市計画の下に、城下町が造られている。商人の街から武家屋敷へは石段を登ってゆく。長い土塀や白壁の続く屋敷通りを散策すると、家老を務めた大原家や、磯矢家、能見家の屋敷が軒を並べている。映画やテレビドラマのロケ地になっているというが、これほどの城下町は全国的にも珍しい。一見の価値あり。

「さつき城下町資料館」に足を運んだ。さらびやかな御所車が置かれていて、一階から二階の部屋に上がると、眼前に青い海が広がっている。城下を流れる八坂川には生きる化石カブトガニが生息していると聞いた。「浜辺や川にゴミや流木が流れ着きますので、ボランティアの協力で清掃活動が続け

百三十年前の明治初期、重光銀九郎が天守閣に模して建てた。橋本屋は廻船問屋、造り酒屋、材木商と商売を変えて行ったが、現在は短期大学の「湊音寮」となり五代目の和田さんが一階で製作活動を行い、二、三階は在住の工芸家や芸術家の作品展示を行っている。三階屋は和田さんの生家であり「この家を美術と文化の拠点として、多くの芸術家の館として提供したい」と夢を語っている。

● **六郷満山の文化**

北九州・小倉から始まる「豊の国歴史ロマン街道」の終着ポイント、宇佐八幡宮から、国東半島への国道213号に入る。国東半島は両子山をはじめとする峰々を中心に円を描いたような半島。宇佐八幡宮の信仰に仏教を取り入れて開花した山岳信仰「六郷満山」と呼ばれる信仰が古くから盛んだった。山に入ると、熊野磨崖仏、端正な佇まいの富貴寺や両子寺など文化財が多く、神様と仏様への信心が融合した独特の雰囲気は今も残っている。

海岸沿いはガラッと違う。「昭和の街」で名を売った豊後高田の商店街をのぞいて、さらに車を走

大分県・国東半島をぐるっと一周、別府から佐賀関までめぐる。別府湾岸・国東半島海への道（約150km）が3月、新しく日本風景街道に登録された。九州で12番目。お猿さんで有名な高崎山のふもとを走り、温泉の別府と大分を結ぶ別大国道（国道10号）は6車線に拡幅され「マイツリー」運動など市民参加の沿道植樹が進んでいる。また、別府八湯ウォークなど新しい湯の町めぐりや別府湾沿いのウォーターフロント活動も盛り上がりつつある。別府を中心に北へ六郷満山文化で知られる国東半島、南は豊後水道を挟んで四国を望める関アジで有名な佐賀関へと、南北に両手を広げたユニークな風景街道だ。

国東半島をぐるっと一周 別府から佐賀関へ

● **新しい道・別大国道**

別府と大分を結ぶ別大国道（約7km）は、別大マラソン大会の舞台として使われる。現在、6車線化が進められ、同時に、この道路の「道守活動」として、道路沿いに、「マイツリー」として思い思いの記念樹を植え、守り育てる活動が続けられている。また、海岸沿いにはウォーキング、サイクリングロード、休憩場所として田ノ浦ビーチなども整備された。高崎山と別府湾、山と海の自然景観が楽しめると共に「うみたまご」の愛称で親しまれている水族館などもあり、親しまれる道として生まれ変わった。約150km、湯の街・別府に着いて、別府八湯めぐりなどでゆっくり旅の疲れを癒すことが出来た。

NPO法人大分ウォーターフロント研究会（三浦洋一会長）が中心になって、今回の風景街道登録申請を行った。「国東半島、別府―大分、佐賀関が一体となって、魅力向上のための市民活動を進めていきたい」との抱負を代表の加藤千明さん（NPO法人大分研究所所長）は話している。

「います」と佐藤千春さん（街ビカ推進協議会）。「豊後路の小京都」と呼ばれる杵築の街は、こうした人々によって守られている。隣の城下カレイで有名な城下町・日出町も「天下の美味」だけでなく、海浜公園やザビエルの道など歴史探訪を楽しめる。

● **現代芸術家の館に**

また今年二月から三月にかけて開催された「国東半島アートプロジェクト」では、オノ・ヨーコさんの「見えないベンチ」、チェ・ジョンファさんの「色色色」など世界的なアーティストの作品が展示された。

まだまだある。隣の国東市国見町では、元歯科医院だった民家を、芸術家たちが改造した「集ういえ」と「作るいえ」の二つの「いえ」が誕生した。やってきたアーティストが集い、作品を作る場として造られ、人種はもろろん年齢、男女、立場を越えた本当の意味で「自由ないえ」を順次作って行くのだという。

国見町伊美に入ると古い三階建て造り酒屋を改造して、表装家の和田木乃実さん（国見アートの会長）が、作品と取り組んでいた。「橋本屋の三階屋」と呼ばれ、約

らせ、長崎鼻（香々地）を訪ねた。岬の先端は菜の花、ひまわり、コスモスが段々畑いっばいに咲く「花の岬」とも呼ばれている新名所。それだけではない。これらの花を原料に食用油、ドレッシングなどの生産を行い、新商品として売り出そうとしている。「まだまだ課題はありますが、ビンなどおしゃれなデザインで、お客様を魅了します」と町が勧めている都会からのUターンに応じた近藤哲憲さん（長崎花B・Kネット会長）は自信ありげだ。



H25年別大マラソン（大分市）



城下かれいも食せる的山荘（日出町）



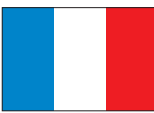
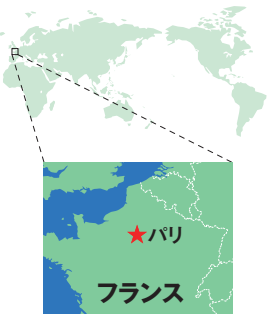
マイツリー植樹中（大分市）



B・Kネット（豊後高田市）



長崎鼻（豊後高田市）



自転車貸し出しシステムを導入

自転車道700kmへ

フランス、パリの道に関するもので近年もっとも大きなニュースがトラムの復活と自転車貸し出しシステム、velib（ヴェリブ）の導入ではなからうか。

しかし、私がいた2004年から2005年当時はトラムもヴェリブもなかった。トラムは既に工事中で2006年の開業時にいないことを恨めしく思ったが、ヴェリブについては計画も耳にした記憶がない。もしかすると自身の語学能

力ゆえかもしれないが、大学院で交通と持続可能な開発について学んでいたにも関わらず、である。このように、当時のパリには自転車というイメージがほとんどなかった。このお話を頂いたときに真っ先に思い出したのが、ある新聞記事である。2005年1月7日付の『20minutes』によると、当時の自転車専用道の総延長は176.2km（市側の公式発表だと292.8km）、2001年から4年間で整備の遅れは18.7kmにのぼり、パリのサイクリスト団体は抗議行動を行う予定とあった。あらためて数字だけ見るとそれなりに整備されているようにも思う。当時の写真を見ると、確かに意識して撮っていないのに自転車専用道が写っているものが意外なくらい

あった。だが、肝心の利用者はそこまでいなかったと記憶している。坂道や段差が多い道路事情や、盗難の恐れからか個人で自転車を所有する人が少なかったのでは、と推察できる。ヴェリブの自転車をシェアするというスタイルが定着したのも頷ける話である。

それが2007年のヴェリブのサービス開始以降、市の発表によると2011年には1日当たりの平均貸出件数が11万件にのぼった。また、2012年7月15日付の『Le nouvel Observateur』によると、2001年から2012年の間にパリ市内で652kmの自転車道が整備され、2014年にはその数字が700kmになると予想されている。ほんの10年にも満たない間にこの変わりようである。伝統を守るというイメージの強いヨーロッパ、フランスであるが、滞在時から実は新しいものも積極的に取り入れる一面があるように感じていた。ヴェリブや自転車道の整備



Pont de Bercyの自転車専用道。上にはメトロが通っている。2004年10月撮影



Pont Saint Michel上のバスレーンと共有の自転車レーン。2004年10月撮影

- 1 <http://blog.velib.paris.fr/blog/2011/06/30/la-regulation-succes-et-ambitions/>
- 2 <http://tempsreel.nouvelobs.com/societe/20120713OBS7205/les-5-ans-du-velib-en-10-chiffres.html>



プロフィール
まつなが 永 千晶

九州大学大学院工学研究院環境社会部門助教。2004年よりフランスのパリテックマスターコース「交通と持続可能な開発」に留学。翌年同コースの修士号（科学・工学分野）取得。専門は交通計画。



15区のメトロBalard駅周辺（おそらくBoulevard du Général Martial Valin沿い）の自転車専用道。2006年9月撮影

道守たちのトピックス



実験で使ったフェイスブックページ



報告から4時間で修理完了 投稿された道路の危険箇所

道守の新たな可能性を探る

社会実験

道守みやぎき会議

道守みやぎき会議では「市民参画による道路情報の集約・発信システムの構築に関する社会実験」に取組ました。市民がSNSを使って道路の状況を報告しようという実験です。

日本の道路網は老朽化が進んでおり、今までは道路管理者がパトロールを行っていたのですが、これを市民の力で支えていこうという試みです。市民が日常生活の中で、修復すべき道路の危険箇所をいち早く察知し、その状況をスマホ等で撮影、GPSで位置情報をつけてSNSに投稿しようという実験です。この投稿を道守みやぎき会議と道路管理者で共有し、修理が必要な場合は直ぐに対応、緊急でないものは、定期の補修計画で行なうかを判断し、その結果を投稿していただいた市民にSNSを使って発信しました。

2週間の実験で実際に補修まで行った事例が4件、定期点検時に修理をする候補としてあがった事例が10件も報告されました。本格運用になれば道守の新たな活躍の場が広がるでしょう。

道守

人物伝

どんな活動も声かけから！

鹿児島市新照院町（新照院町中央通り会）
立山幸二さん（82）

鹿児島市新照院町の立山さんは、通り会会長と町内会会長を務めています。82歳の現在もお元気なのは、若い頃、お米の配達や小学生にソフトボールを教えるスポーツ指導員をしていた経験のおかげなのでしょう。

国道3号の電線等の地中化工事に伴い、歩道も広く整備された平成16年から、歩道のフラワポットに花を植える活動を続けてきました。それでも、指導員をしていた頃と比べて、町内の子供の数も減り、通り会も高齢化が進む現在では、後継者不足を心配されています。「元氣なうちはがんばるつもりだけれども」と、年齢を気にする様子でしたが、道守通信バックナンバーの道守人物伝で紹介された95歳の女性の記事を見て、「先輩ががんばっているなら、自分は、まだまだがんばらなくては」と、気持ちを新たにされていました。

昔と変わらず町内会の活動にも熱心で、現在は、季節柄、火の用心の呼びかけに熱心に取り組み、町内の火事なし記録の更新をめざしているそうです。

「声かけだけでも防火対策になるんだよ」。地域のコミュニケーションを大切にしながら、活動を続ける立山さん。いつまでもお元気で、後輩たちに勇気と元氣を与えてください。



道守通信 編集後記

○みちづくしin熊本は、「これまでに経験したことのないような大雨」に見舞われた九州北部豪雨災害の復旧で大変な時期に熊本で開催されました。特に開催地である熊本は、阿蘇市において、死者や行方不明者が出る大被害の中で、二巡目のスタートを切る責任を果たされ、本当にご苦勞様でした。今年のみちづくしに動き出した長崎、11月1日に向けて実行委員会も毎月1回開催され、素晴らしい交流会になることでしょう。乞うご期待を!!

○各県の24年度活動報告は、地域の特色や個性ある素晴らしい内容です。子供達を巻き込んで活動の輪を拡げている長崎や大分、銀行を賛助会員として入会していただき、資金やビブスを充実している鹿児島、SNSを活用し、新たな道守活動を展開する宮崎など頼もしく、今年度の活躍が楽しみです。

○日本風景街道に3月新たに登録された「別府湾岸・国東半島海への道」九州で12番目に登場。東九州道も次から次へと開通し、これから東九州の注目。熱くなりますね！

○九州地方整備局の担当の皆様が人事異動で大幅に入れ替わりしました。昨年度までお世話になった地域道路調整官の田中さん、道路計画第二課長の白川さん、補佐の鈴木さん、道路管理課長補佐の中川さん、窓口担当係長の徳重さん、いろいろとありがとうございました。新たに担当されることになった地域道路調整官の佐々木さん、道路計画第二課長の志賀さん、補佐の石橋さん、道路管理課長補佐の大槻さん、窓口担当係長の稲積さんどうぞよろしく願います。



発行「道守九州会議」

広報誌「道守通信」春号
平成25年4月26日発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室（九州地方整備局道路管理課内）

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/>

■（一社）九州建設技術管理協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

e-mail michimori@qsr.mlit.go.jp